



Eメール kusunoki_mori@feel.ocn.ne.jp

ホームページ <https://minnanomori.jp/hoiku/kusunoki/>

楽しい給食のひと時から思うこと

入園・進級して一か月が経ちました。新入園児の子どもたちも少しずつ笑顔が増え、喜びや不安が入り混じっていた進級児も、担任や部屋の環境に慣れ、楽しんでいる様子が見られるようになりました。



給食の風景

先日のあるクラスの給食の時間の出来事です。給食の中で苦手なものがあり、終わりにしてデザートを食べていたK君。デザートを食べ終わるとK君は「おさかなたべたい」と魚をおかわりしたいと伝えてきました。「魚好きなの？」と聞くと「うん！」と嬉しそうな返事、でもお皿には苦手な野菜がまだ残っている状況。「お皿の野菜はピカピカにできそう？」ときくと、そこは首を振り、しょんぼりした様子。おかわりはお皿にある給食を全部食べないともらえないと思っています。そこにいた職員が、「おさかな食べたいよね…。じゃあ、この中のもので食べれるものある？」と聞くとハムを指差したので、「ハム食べれるんだね、食べてみる？」と聞くと自ら口に入れました。そのあとは残っていたスープの汁も自分で食べ、そこで「おしまい」。野菜は残っていますが、おかわりの魚を嬉しそうに食べていました。



昨年度の野菜バイキング

“おさがピカピカになったら、デザート”や“ピカピカにしないとおかわりはもらえない”これは、あくまでも大人の決めた大人の価値観の中のルールです。もちろん、残さず食べてもらいたい気持ちはありますが、そのためには子どもが“頑

張って食べないといけない”という状況になります。食事は本来楽しく食べるものであ

って頑張る食べるものではありません。食材の中で苦手なものがあるのは味覚が発達過程の子どもたちにとって当然のこと。無理に食べさせようとすると余計食べなくなるという悪循環が生まれます。自分で食べたいものを自分で選び口に入れていく、自己選択自己決定できる場の一つが食事の場面です。

くすのき保育園では畑で育った野菜のクッキングはもちろんのこと、焼き芋、芋煮会、おさかなクッキング(ちょう組)、柏餅づくり、月見団子作り、味噌づくりなど一年を通して四季折々の食育活動が行われます。様々な食に触れる機会を多く持ち、食に関する興味や関心を広げていくこと、そして、食に関わる楽しい活動を通して、食べるのが苦手であっても、参加した気持ちが体験として残ってくことを大切に考えながら食べる意欲を育てていけるといいですね。



うどんづくり (昨年度年中)

今年もやります！口答詩！

くすのき恒例の口答詩。普段の何気ない子どもとの会話の中で思わずくすっと笑ってしまうようなやりとりや、ほっこりするようなやりとり、こんなこと考えているんだと感じるやりとり、色々あると思います。そんなエピソードを記録したものを口頭詩といいます。今年もたくさんの子どものつぶやきを集め、年度末に口頭詩集としてまとめたいと思います。ご家庭でのお子さんとの何気ない会話を大人が意識することで、子どもとのやりとりは楽しくなります。楽しい会話をぜひたくさん拾い集めましょう！口頭詩の用紙は玄関ホワイトボードにあります。書けましたら事務所や担任までいつでもお持ちください。